



「病を乗り越えて」

猿渡太久男

20周年記念文集＝「山をふりかえる」＝の原稿依頼があり、当時の山行記録を読み直した。97年10月25日に熊本さん、堀さん、原田さんご夫妻、半澤さんと明神ヶ岳・明星ヶ岳に登ったのが最初の出会いでした。その文章には次の通り記述していました。

4月1日よりSMOJがスタートしてジュンちゃんは3月末に九州に転勤となった。本当は小生が九州に帰る予定だったが、どこかで番狂わせとなってしまった。結局ジュンちゃんとは昨年7月の尾瀬至仏山が最後のパートナーとなった。これで山のパートナーは居なくなったが、新たに監査部の原田さんが熊本さんを中心としたクマさん会を紹介してくれたので、今回がクマさん会での初めての山行きである。

今日は原田さんご夫妻も参加され、原田さんの奥さんとは熊本以来の出会いで懐かしかった。

熊本さんは一見怖そうだが山のベテランで、あちこちの山を良く登っている様で詳しく面倒見が良い。堀さんも学生時代にワンダーホーゲルをやっていたらしく山登りが好きなようだ。

それから04年まで10回ご一緒させてもらい、楽しい思い出をたくさん作る事が出来ました。九州に帰省してからもツアーを企画して戴き、花を愛で温泉三昧を楽しむ事もありました。速いもので20年ですね。それは愉しい事ばかりで無く、その陰には病との闘いもありました。

99年4月に大腸ポリープが発見され、内視鏡で摘出しました。これは日帰りの手術でしたが、ステージⅢのがんもどきと診断されました。癌の不安を抱えたまま、翌年1月1日から禁煙を実行しました。

そして03年の健康診断で腎臓にポリープがあるのが解りショックでした。これで九州の病院で手術する事を決断し、04年の3月で退職し実家に帰ってきました。その年6月に九州医療センターで腎臓の部分摘出をしたら、腎血管筋脂肪腫と診断されました。

家族や看護師の娘と孫の笑顔に支えられ、ドクターから良性と言われた時は安堵しました。1か月あまりの入院生活で退院できたので、その後は田舎暮らしを満喫していました。

ところが平穏な生活も突然の危機が訪れ、15年1月5日夕方くも膜下出血で倒れました。救急車で緊急搬送され翌日に8時間にも及ぶ大手術をしました。幸いにも倒れた場所や発見が早かったので、1ヶ月の入院と2ヶ月のリハビリで完治しました。いまは何の後遺症も無く、以前と同じ健康体に戻ったと思っています。



昨年の5月に女房と二人で伯耆大山に再び登った時は感激し、山頂での喜びもひとしおでした。その後は家庭菜園を楽しみながら、週に2日ほど近くの里山を歩いています。山歩きをして体力を維持していたお蔭で、大手術にも耐えられ生命力もあったと思います。

あの時クマさん会と出会ってなかったら、あのまま東京での山歩きは続かなかったでしょう。あの時の出会いがあったからこそ、今の私が居ると思えばクマさん会は恩人です。

熊本さん有り難うございました。そしてこれからも元気で30周年を目指しましょう。